

一首詠んで 素直な心に

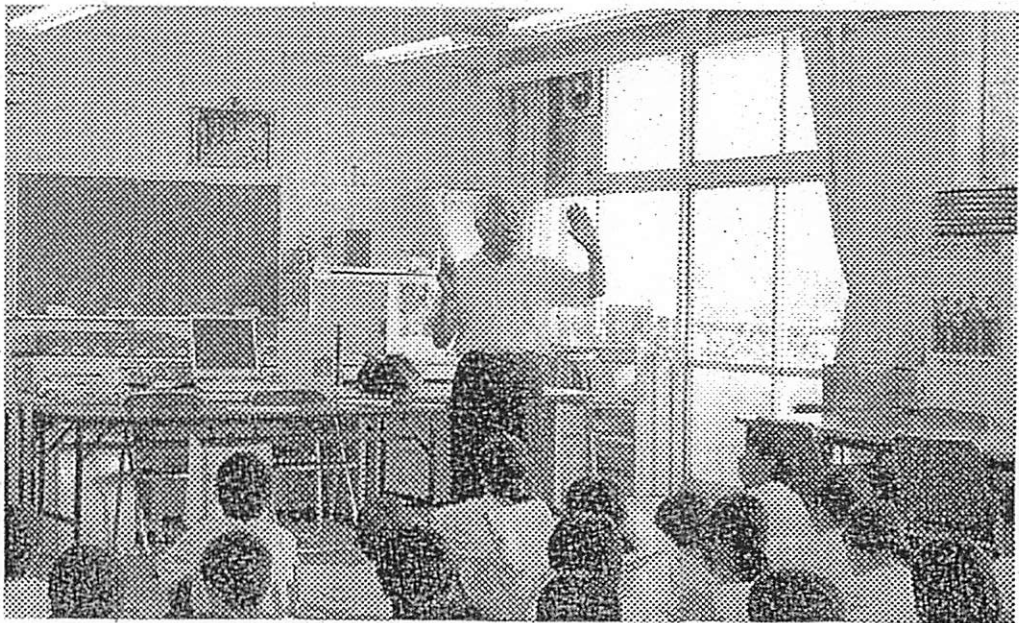
熊谷・奈良中で短歌授業

熊谷市立奈良中学校(新井英和校長)の1年生45人が、同市文化連合の金子貞雄会長(76)から短歌について学んだ。生徒たちは、県芸術文化祭2018芸術文化ふれあい交流フェア「ふれあい短歌賞」に短歌を応募する。

同短歌賞審査員を務める金子さんは同校の昨年の受賞作を読解。約800編の応募の中から選ばれた荒木小春さんの「大好きな祖母との日々を大切に今この時が溢(あふ)れる幸せ」と詠んだ短歌に対し、祖母の保坂典子さんは「ハイタッチ今日も一日頑張って朝の触れ合い私の生きがい」と返歌した。「祖母と孫の心の触れ合いに胸が熱くなりますね」と金子会長。

金子会長は「短歌を作ることにより素直になれる。思春期で言えないけれど、心の中では家族に感謝をしている心優しい生徒さんが多いですね」と話した。

(タウン記者 栗原和江)



生徒たちに短歌を解く金子貞雄会長
熊谷市立奈良中学校